

# パンタナール通信

南北米福地開発協会 会報 第1号 2003年10月12日発行



パンタナール湿原を流れるパラグアイ川

拓基  
いよ奥地に向けての新たな5年目が始まりました。海軍  
警備所を国に献納し、40メートルからのアンテナ塔を  
建てて通信の便宜を図つてあげ、ボート90馬力（5人  
乗り）を献納して、国境警備と共に、無医村地域故に地  
方の救急患者の輸送にも役立つて感謝されてきました。  
間もなく警察署及び宿舎が献納されるでしょう。こうし  
た安全を確保しながら、地域に貢献しつつ、レダ8万ヘ  
クタールの開発に向けて、基地作りを進めてきました。  
建物としては、国際セミナーハウス（300人宿泊可、  
図書室、コンピュータ室併設）、レストラン、プール及  
びシャワー室、ゲストハウス二棟、労働者用も含めて宿  
舎五棟、ジエネレーター、ハウス、浄水場2棟、給水塔、  
牧童小屋、労働者用食堂、家畜の集荷場、更に設備とし  
て小規模農場、植樹園（2万坪、1550本植樹）、現  
在牧場建設（約1万ヘクタール）が進められています。  
またレダはパンタナールに属する自然豊かな地域ですか  
ら、環境問題は公害を出さない、自然保護を積極的  
に進めていくことを念頭に取り組まれています。自然観  
察や釣り、乗馬、水泳などのスポーツが楽しめる観光に  
も最適なまれにみる秘境です。国際会議なども出来ます。  
毎年行われている国際協力青年ボランティア隊の活動も  
好評です。国力が弱いため、電気も浄水場もないこの地  
域の村の人々の大歓迎はもとより、参加した青年達も現  
地の学校建設と文化交流を通して、人生の新たな希望と  
国際貢献の重要さを認識してきました。如何に地域のた  
め、国のために、世界のために尽くすか。平和な地球村建  
設に向けての一石を投げてきました。皆様の尚一層のご  
理解とご協力を賜りますれば感謝です。そして是非レダ  
にお越し下さい。心からお待ちします。



神山威会長挨拶

皆様のお陰で、未開の地からの  
レダ開発も10月1日で4周年  
を迎えました。今まで正に開  
拓基  
地作りの期間でした。これからいよ  
いよ奥地に向けての新たな5年目が始まりました。海軍  
警備所を国に献納し、40メートルからのアンテナ塔を  
建てて通信の便宜を図つてあげ、ボート90馬力（5人  
乗り）を献納して、国境警備と共に、無医村地域故に地  
方の救急患者の輸送にも役立つて感謝されてきました。  
間もなく警察署及び宿舎が献納されるでしょう。こうし  
た安全を確保しながら、地域に貢献しつつ、レダ8万ヘ  
クタールの開発に向けて、基地作りを進めてきました。  
建物としては、国際セミナーハウス（300人宿泊可、  
図書室、コンピュータ室併設）、レストラン、プール及  
びシャワー室、ゲストハウス二棟、労働者用も含めて宿  
舎五棟、ジエネレーター、ハウス、浄水場2棟、給水塔、  
牧童小屋、労働者用食堂、家畜の集荷場、更に設備とし  
て小規模農場、植樹園（2万坪、1550本植樹）、現  
在牧場建設（約1万ヘクタール）が進められています。  
またレダはパンタナールに属する自然豊かな地域ですか  
ら、環境問題は公害を出さない、自然保護を積極的  
に進めていくことを念頭に取り組まれています。自然観  
察や釣り、乗馬、水泳などのスポーツが楽しめる観光に  
も最適なまれにみる秘境です。国際会議なども出来ます。  
毎年行われている国際協力青年ボランティア隊の活動も  
好評です。国力が弱いため、電気も浄水場もないこの地  
域の村の人々の大歓迎はもとより、参加した青年達も現  
地の学校建設と文化交流を通して、人生の新たな希望と  
国際貢献の重要さを認識してきました。如何に地域のた  
め、国のために、世界のために尽くすか。平和な地球村建  
設に向けての一石を投げてきました。皆様の尚一層のご  
理解とご協力を賜りますれば感謝です。そして是非レダ  
にお越し下さい。心からお待ちします。

## 研修会（毎月一回）



## 入会案内

南北米福地開発協会事務局  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前6-19-14  
神宮前ハッピービル10F

電話番号 03-5774-0544  
ファックス 03-3407-0145  
担当 柴治邦彦

南北米福地開発協会は南米パンタナールを中心とした様々なボランティア活動を行っていますが会員募集をしています。詳細は事務局へお尋ね下さい。又、入会申込み書及びパンフレット等のご案内は事務局に用意しています。入会されて、毎月500円の会費を納められた方には『パンタナール通信』、講演会、エコツアーや研修会などの催しや、会の様々な情報報を毎月お送りします。

## 第4回国際青年ボランティア隊報告

(2003年8月25日-9月14日)

南米パラグアイ国パンタナール地域ディアナ村小学校建設

隊長

三石昭治（南北米福地開発協会）

副隊長 中田勝尋（横浜国大）

男性隊員

白井啓文（協会会員）

児島琢磨（鹿児島国際大学）

野村安弘（東京農工大修士）

東森孝勝（エール大学）

矢島久裕（協会会員）

筒原良昭（協会会員）

女性隊員

戸石清子（日本福祉教育専門）

染谷和美（産業短期大学）

黒田善詩美（常盤大学）

吉田晴美（世界女性連合会員）



希望と多くの支援物資を携えて成田空港を8月25日出発



SEP 1 2003



SEP 5 2003

ディアナ村小学校の校舎建設（土台造り）

レダ農場にて植樹活動（各自の記念植樹をする）

## 三石隊長総括報告

今年の奉仕隊の活動舞台は、パラグアイといつても、ブラジル、ボリビア3ヶ国の国境が重なる地点に近い、バイヤネグラという町の隣接地でポエルト・ディアナというインディオ村落であった。約260世帯、千五百人ほどのチャマココと呼ばれる部族の人々が貧しい生活をしている。昨年の青ボ隊の活動舞台となつたエスペランサ村より、パラグアイ川を更に30キロメートルほど遡つた場所である。

今まで継続して行なつてきた青ボ隊の体験を通して、村の人々の生活の貧しさをさまざまと目撃する事が出来た。青年たちの目はまずそうした人々の衣食住の貧しさに向けられ、驚きかつ戸惑うのであるが、同時にそこに住む人々、特に子どもたちの生き生きとした明るさには更に驚かされるのである。いまどきの現地はかなり肌寒い日もあるのだが、充分な衣服も着けず、しかも裸足の子達がなんと多い事か。そんな子どもたちが毎日青ボ隊員のいる所にやつてきて、一緒に遊び労働も手伝つてくれた。ある隊員は一日、体不調で休んでいた時、気遣つて部屋に来てくれた子どもの優しさに涙を流した。奉仕隊がかかわつた労働は、ちょうど校舎の基礎が出来、床となる部分にコンクリートを打ち込む段取りの時だった。ミキサーでこねる砂利や砂、セメントを運ぶ作業とそれを定数ずつバケツに入れる作業など、慣れない力仕事に皆玉の汗を流した。男性たちには校舎の周りに土寄せした場所をつき固める作業も特別にあてがわれた。このヨイトマケ労働は彼らの筋肉を翌日から痛ませたが、この痛みがこの活動に参加した満足感を増加させたようである。

炎天下の作業のほか、子どもたちに教えた朝の授業が始まる前のラジオ体操、折り紙教室の楽しい触れ合いが強い印象に残つた。夕食後、夜の反省会はひとり一人のボランティア活動に対する意味と価値の認識を深めていくよき場所となつた。環境、事情の違いからの驚き、感動を越え、彼らが目にした現実の由来を考え、どのように変革し改善してゆけるのか真剣に考え始めるようになつてくる。

奉仕労働で汗を流し、人々との触れ合いを実際に体験した後でのみ入つて行ける貴重な心情の領域であるに違ひない。

今年も今まで三回の活動時と同様、またそれ以上に南北米福地開発協会の神山会長始め、世界平和女性連合、国際レインボークラブ、ヤクルト（株）、日本救援衣料センター、一心病院など多くの関係者の方々から多大な配慮と協力を賜つた。

心からの敬意と感謝をお捧げ申し上げたい。以上